様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第１面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6　年　　7 月　　1 日

富山県知事
　　新　田　八　朗　　殿

提出者

住　所　富山県高岡市長慶寺530番地

氏　名　協和ファーマケミカル株式会社
代表取締役社長　三吉　勇人

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号　　0766-21-3456

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の２第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	協和ファーマケミカル株式会社
事業場の所在地	富山県高岡市長慶寺530番地
計画期間	令和6年4月から令和7年3月

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	医薬品製造業【165】
② 事業の規模	146億30百万円（前年度製造品出荷額）
③ 従業員数	446名
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	図1参照

（日本産業規格　Ａ列４番）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
（管理体制図） 図2参照			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（　令和5　年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油、引火性廃油（有害）、廃油（有害）	その他
	排　出　量	596.9　t	389.9　t
	（これまでに実施した取組） 新規生産品目で発生する引火性廃油の有価物化に取り組んだ。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油、引火性廃油（有害）、廃油（有害）	その他
	排　出　量	545　t	323　t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き、引火性廃油の有価物化に取り組む。 また、強アルカリ（20%アンモニア水）に関して、セメント会社での排ガス処理（脱硝）での用途があるらしく、こちらも有価物化の検討を行う予定。		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 酢酸エチル、トルエン、イソプロピルアルコール、アセトンなどの有機溶剤はなるべく混合せずに分別し、有価物化している。		
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 有機溶剤はなるべく混合せずに分別し、有価物を目指す。 また、上述の通り、強アルカリ（20%アンモニア水）についても有価物化を検討する。		

（第３面）

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　令和5　年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組） ―		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組） ―		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　令和5　年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組） ―		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組 ） ―		

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（　令和5　年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（これまでに実施した取組） ―		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	―　t	―　t
	（今後実施する予定の取組） ―		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（　令和5　年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	「別紙の通り」	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） 「別紙の通り」		

<table>
<tr><td rowspan="8"></td><td rowspan="8">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別管理産業廃棄物の種類</td><td>「別紙の通り」</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">全　処　理　委　託　量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>優良認定処理業者への
処　理　委　託　量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>再生利用業者への
処　理　委　託　量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者への
処　理　委　託　量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者以外の
熱回収を行う業者への
処　理　委　託　量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）

「別紙の通り」</td></tr>
<tr><td rowspan="3" colspan="2">電子情報処理組織の使用
に関する事項</td><td colspan="3">【前年度（　令和5　年度）実績】</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別管理産業廃棄物
排出量
（ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。）</td><td colspan="2">986.87　t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組等）
電子情報処理組織の使用を今後も継続する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※事務処理欄</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

備考

１　前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに１枚作成すること。

２　当該年度の６月30日までに提出すること。

３　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

４　「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

５　「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。

６　「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第６条の14第２号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の３の３第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

７　「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第２条の４第５号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第８条の31の４に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。

８　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が３以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

９　※欄は記入しないこと。

廃棄物の発生する工程フロー　　図1

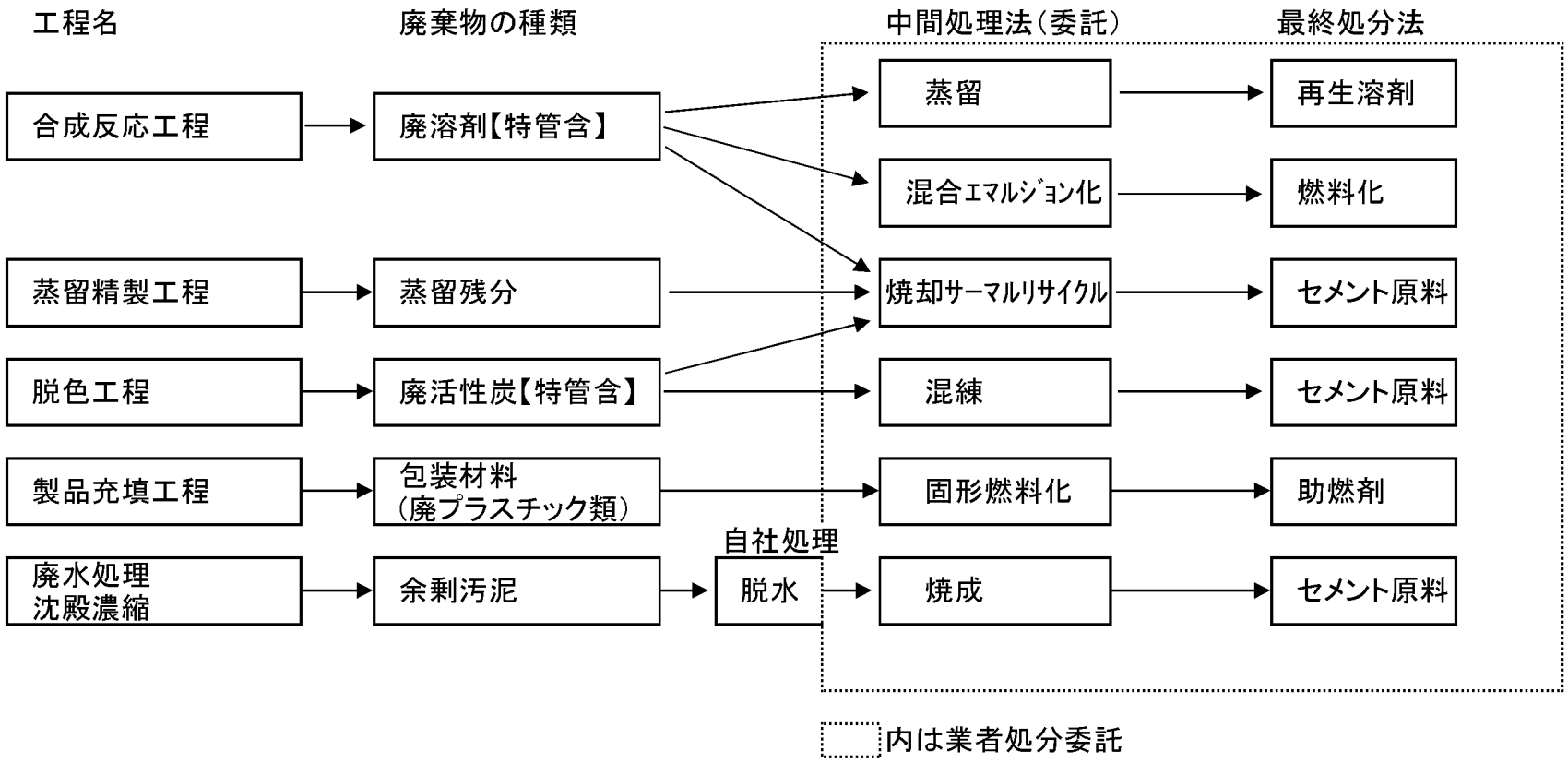
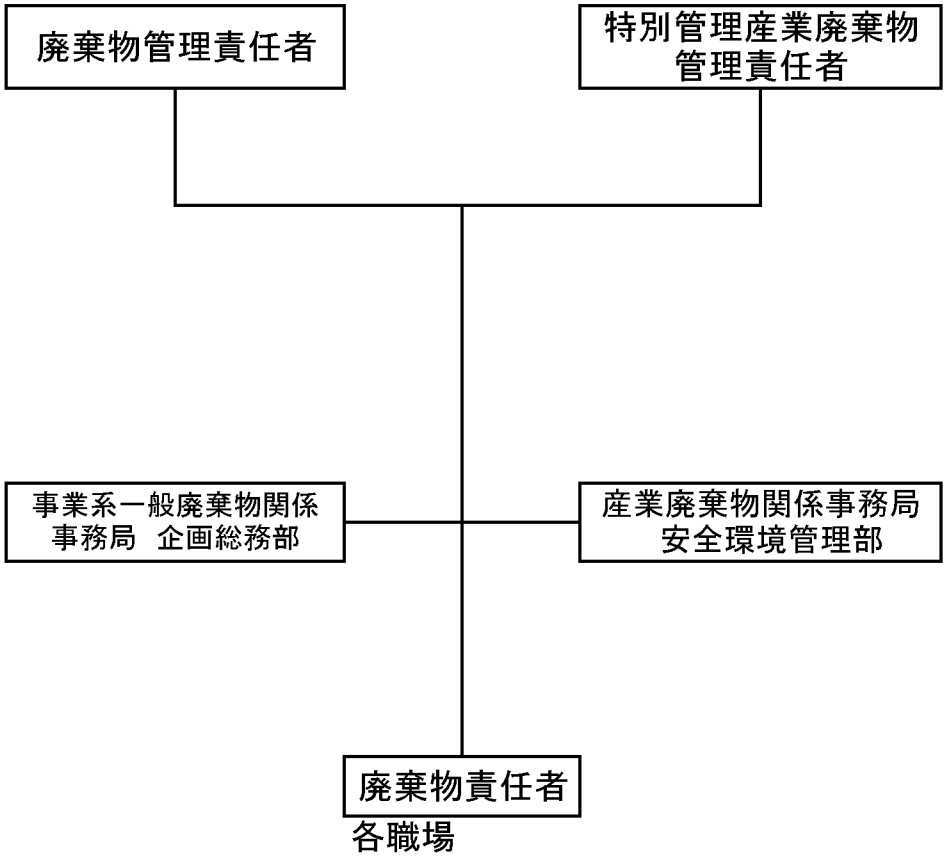


図2

管理体制図


廃棄物管理責任者
特別管理産業廃棄物
管理責任者
事業系一般廃棄物関係
事務局　企画総務部
産業廃棄物関係事務局
安全環境管理部
廃棄物責任者
各職場

別紙

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和5年度）実績】

産廃物の種類	全処理委託量(t)	優良認定業者への処理委託量(t)	再生利用業者への処理委託量(t)	認定熱回収業者への処理委託量(t)	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量(t)
廃アルカリ（有害）	124.17	41.54	124.17	0.00	0.00
廃油（有害）	48.77	48.77	0.00	48.77	0.00
引火性廃油（有害）	16.68	16.68	0.00	0.29	16.39
引火性廃油	531.50	531.50	124.00	342.16	65.34
強アルカリ	242.72	242.72	25.27	217.41	0.04
強酸	21.90	21.90	16.52	5.38	0.00
感染性医療廃棄物	0.20	0.20	0.00	0.00	0.20
汚泥（有害）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
廃酸（有害）	0.930	0.930	0.930	0.000	0.000
廃水銀等	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
PCB汚染物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	986.87	904.24	290.89	614.01	81.97

（これまでに実施した取り組み）

廃溶剤の有効利用率向上を目指し、単純焼却処分委託を減らし、混合ｴﾏﾙｼﾞｮﾝ化処分委託（燃料化）

産廃物を焼却処分委託する場合は、なるべく認定熱回収業者へ委託。

【目標】

産廃物の種類	全処理委託量(t)	優良認定業者への処理委託量(t)	再生利用業者への処理委託量(t)	認定熱回収業者への処理委託量(t)	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量(t)
廃アルカリ（有害）	100.00	100.00	60.00	40.00	0.00
廃油（有害）	30.00	30.00	0.00	30.00	0.00
引火性廃油（有害）	15.00	15.00	0.00	0.00	15.00
引火性廃油	500.00	500.00	150.00	300.00	50.00
強アルカリ	200.00	200.00	0.00	200.00	0.00
強酸	20.00	20.00	15.00	5.00	0.00
感染性医療廃棄物	2.00	2.00	0.00	0.00	2.00
汚泥（有害）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
廃酸（有害）	0.50	0.50	0.50	0.00	0.00
廃水銀等	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
PCB汚染物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	867.50	867.50	225.50	575.00	67.00

（今後実施する予定の取り組み）

産廃物を焼却処分委託する場合は、なるべく認定熱回収業者へ委託する予定。

引火性廃油の分別化を実施し、有価物化を検討する。